

平成30年度「常盤賞」 - 受賞の喜び -

常盤工業会では、平成31年3月8日に平成30年度「常盤賞」表彰式(第29回)を行い、学業優秀者、課外活動優秀者として23名の方を表彰しました。受賞者の皆さんに次の質問の中から3つ答えていただく形で受賞の喜びを語っていただきました。

《質問事項》

- ①工学系で学ぼうと思ったきっかけは？
- ②工学部在学中に一番印象に残ったことは？
- ③(学業優秀者) 在学中にあなたが一番熱中したことは？
(課外活動優秀者) 活動をはじめたきっかけは？
- ④(学業優秀者) 勉強をする際に工夫していたこと、心がけていたことは？
(課外活動優秀者) 活動を通して学んだことは？
- ⑤将来の夢をお聞かせください。
- ⑥(学業優秀院生) 大学院で学ぼうと思ったきっかけは？
- ⑦(学業優秀院生) 研究内容について簡潔に紹介ください。
- ⑧(学業優秀院生) 将来の夢をお聞かせください。





河口 大輔（機械4年）

②海外研修です。日中韓3ヶ国の学生が協力し合っものづくりを行うプログラムとなっており、コミュニケーション力・技術力の2つの能力が試される内容でした。特にコミュニケーション面では、各国の価値観の違いに驚きつつもお互いを尊重し合っ生活をし、違いよりも共感することを発見することで、多様性を受容する心を学ぶことができました。

③卒業研究です。生体力学研究室に所属し、骨格筋シミュレーションについて研究しています。この研究は、工学の観点から生体にアプローチできる点がモチベーションとなり、熱中しました。今後も「面白い」研究となるように努力していこうと思っています。

④機械系は特に広範囲な知識が必要となるので、学生時代には授業から広く浅く学ぶという考え方が必要です。そして、学んだ授業科目の中から、興味のあるものを選び自発的に勉強し、極めていくことを心がけていました。



石橋 直也（機械4年）

①小さい頃からSF映画やアクション映画が好きで、特に劇中に出てくるロボットや車に大きな魅力を感じ、工学系に興味を持つようになりました。兄の影響もあり、将来、ものづくりに関わる仕事がしたいと思い、工学系を学ぶことを決めました。

②研究室に配属にされた4年生の1年間の活動です。卒業研究はとても大変でしたが、研究室の同期や先輩方、先生にサポートしていただき、私自身大きく成長できた1年でした。留学生との交流もあり、とても有意義な時間を過ごすことができました。

④複数の友達と一緒に勉強することを心がけ

ていました。友達と一緒に課題に取り組み、答え合わせをし、わからない部分はお互いに教え合っ勉強をしました。定期試験期間には、図書館の自由閲覧室に機械工学科の同期が多く集まり、ともに勉強したことがとても印象に残っています。



知花 大夢（社建4年）

①東日本大震災が起こり、災害に対して初めて強く考えさせられました。その後、毎年のように日本各地で災害が起きていたことで、地震や降雨による災害のメカニズムについて学び、防災に関わる仕事がしたいと思ったのがきっかけです。

④覚えることが苦手なので、授業での板書やレジメの中から先生に重要だと言われた内容を優先的に自分の言葉で説明できるようにまとめて、繰り返し読んで覚えるようにしていました。また、計算問題を解く際には授業で解いた問題など基礎的な問題を理解できるまで考えて、しっかり基礎を固めることを心がけていました。

⑤防災に関わる仕事をし、災害による被害をできる限り小さくして、人々の安全を守っていけるような土木技術者を目指しています。そのために大学院で災害についてより専門的なことを学び、災害時に人々の役に立てるような人材になりたいと考えています。



掛谷幸士郎（社建4年）

①将来の夢は建築士になり、立派な建物を設計するのですが、視野が広がっていくうちに、建物を支え、繋げる、

建築よりも規模の大きな土木に興味をわき、土木を学ぶことができる工学部社会建設工学科に入学しました。

②土木・建設業界の国内市場は縮小傾向にあり、海外市場は拡大傾向にあるといわれています。社会建設工学科は世界で活躍できる土木技術者を育成するためのプログラムがとても充実していました。世界で働く土木技術者に求められる能力を知り、日本との様々な事情の違いを学ぶことができました。

③国内だけでなく、海外でも活躍することができる土木技術者になりたいです。社会の基盤となる立派な土木構造物を設計し、社会に貢献したいと思います。



土屋 直輝（応化4年）

①高校生のときに化学を好きになり、将来は医薬品関連の研究・開発をしたいと考え、大学では薬学を学ぼうと思って

いましたが、大学入試直前に工学部応用化学科では広範囲の化学を学ぶことができると知り、化学の知識をより深めたいと思い、工学部で学ぼうと思いました。

④知識を詰め込むのが苦手だったため、勉強する際にどこが重要であるかを常に考え、すべてを関連づけながら勉強しました。それと苦手意識のある分野でも興味を持ちながら勉強するように心がけていました。

⑤大学院に進学し、化学の知識をさらに深め、化学系企業に就職し、大学や大学院で学んだ知識を活かして研究開発をしたいと考えています。



兼子 菜月（応化4年）

①高校時代、圧倒的に座学が多い中での化学のちょっとした実験に衝撃を受け、そこから一気に化学という分野に興味を持つようになったことがきっかけです。

もっと詳しく学びたいと思い工学部に進みました。

②在学中いろいろな出来事がありましたが、特に印象に残っていることは研究室配属後の1年間です。これまでの講義中心の生活から一変、実験中心の生活となり新しい発見もたくさんありました。初めての経験なので苦労することも多かったですが、自身の成長につながったと思います。

④講義中とはとにかく板書と大事だと思った先生の発言をメモして、終わった後に自分なりにノートにまとめ直していました。また、わからないことがあれば極力自分で調べ、さらに先生や友人に聞くことにより疑問は必ず解決するようにしていました。



弘瀬 和正（電電4年）

①日頃の生活の中で感じた憧れからでした。現在、身の回りの家電、自動車、電車、飛行機で必要不可欠なものは電

気であり、これがどのような物理に従っているのか、またどのような分野に応用できるのかに興味を持ちました。日本の工業が世界をリードしていることに刺激を受け、電気電子工学を学ぶことに決めました。

③一年時の留学です。「現代長州五傑」制度でロンドン大学へ留学し、日本とは異なる価値観に大きく感動しました。帰国後は、英国のシェフィールド大学へ再び留学するために学業とアルバイトが両立できるよう日々懸命に工夫をしました。この生活は大変でしたが、

それを成し遂げた時の達成感は今でも鮮明に覚えています。

⑤大学院で研究を続け、世界に通用するエンジニアとなれるよう日々努力していきたいと思います。



高山 雄利 (電電4年)

①幼いころから科学が好きでした。中でも、身のまわりにあふれている電気製品に興味を持ち電気関係のエンジニアに憧れ、工学部で学ぼうと思いました。

④必ず授業に出席し授業内容を理解しながら板書を書き写すことと、課題はできる限り自力で解くことを心がけていました。テスト勉強は早めに取りかかることで、本番数日前から問題を何度も反復したり、気の向かないときは遊ぶ時間も確保していました。また、得た知識は直近のテストのためでなく今後の研究や将来の仕事に役立ち、知識よりも考える力が重要だと思うことでモチベーションを保っていました。

⑤現在、パワー半導体デバイスを用いて電力の変換、制御および電力回路の開閉などを行うパワーエレクトロニクス分野の研究を行っています。夢は大学生活で得た知識や経験を活かして、パワーエレクトロニクス関係の企業で働き、省エネルギー化に貢献するエンジニアになることです。



藤永 大季 (知情4年)

②本学から離れた工学部キャンパスに移ると男子学生の割合も9割となり、最初は気後れしました。しかし、みんな

この工学部が好きだからこそ工学部に入ったわけで、仲のよい友達同士で学業だけでなく私生活も支えあうことができ、山口大学を選

んでよかったと思いました。

③友達と一緒にスマートフォンでできる簡単なアプリの作成に勤めました。一つ一つのパーツや動作を作成し、画面上に配置して実際に動作させることなど簡単なことだと思っていましたが、実際に作成してみると非常に大変でした。

④ゲームの作成において様々な参考書で勉強していたところ、参考書で学んだ内容が授業で出てきました。このことが授業の予習、復習となりテストでの高得点につながりました。



若本 亮佑 (知情4年)

②3年生の時に取り組んだ「enPiT」です。enPiTは半年にわたってチームでアプリケーションを開発するプロジェクト

マネジメントを行うプログラムなのですが、そこでチームで開発するにあたって必要な考え方や柔軟性を学びました。それは、社会に出た後も大きく役立つものだと思います。

④心の余裕を大事にしています。締め切り直前などは、時間ばかりが気になってしまい効率が落ちてしまうので、何事も早めに取り組んで心に余裕を持てるようにしています。また、勉強にしっかりとメリハリをつけることも心がけています。

⑤海外の舞台で仕事をするということです。海外で仕事をすることは自分の世界を広げる大きなチャンスになると思います。そのためにも、残りの学生生活の中で、語学力や技術力を磨いていきたいと思っています。



佐藤 瞭太 (感性4年)

③設計課題です。ある用途の建築を設計するにあたって多くの条件をクリアし、さらに人々が快適に過ごせ、造形的にも美しい空間の提案を考えることに熱中しました。美術館設計の際は、芸術の知識や展示作品の作者の意図なども考えさせられ、他分野の世界を知ることも充実した時間になりました。

④友人といっしょに学習、試験対策、設計課題などを行うことです。大学での勉強は、ある問題に対して1つの解だけが存在するわけではないということがわかりました。自分一人ではなく、友人たちと意見を交換し、様々な方面から考えを深められたことは非常に意義があったと思います。

⑤一級建築士の資格を取得し、多くの人々により快適で、より楽しめる空間を提供していくことです。また日本の建築分野ではまだ十分に達成できていないと考えられている情報分野との融合を積極的に図り、効率化だけではなく、IT技術を駆使した驚きある次世代空間の発展に貢献したいと考えています。



津森 崇行 (感性4年)

①小学2年生の時に学校が新しく建て替わり、毎日通学するのが楽しみになるほどの学校生活を送れました。その時にいつか自分もこのように人を幸せにできる建物をつくりたいと思うようになり、工学系の建築を専門とする分野に進学しました。

②様々な分野の学問を学べたことです。建築といっても数多くの分野があり、それぞれの分野のつながりを考え、1つの問題を複数のアプローチで捉えていく力を養うことができました。この力は将来必ず役に立つと思うの

で大学時代に少しでも学べてよかったと思っています。

④人に説明できるようになるまで自分の中に落とし込むことです。なんとなく分かったことや答えのみ覚えるということは記憶が定着しにくいですが、人に説明できるということは自分の中で理論がしっかり分かっていないとできないことです。これが記憶の定着に役立つと思います。



金本 里咲 (循環4年)

①幼い頃から何か人の役に立つことがしたいと思っていました。また、高校時代には化学が好きで、化学を学んで世の中のためになることは何だろうと考えた時、環境をよくすることだと思いました。そこで、環境について学べる循環環境工学科に入学しました。

④勉強するときは、必ず友人とするようにしていました。わからない問題を一緒に考えることができたり、「勉強がんばろう！」という気持ちが高まったり、やる気を持って楽しく取り組むことができました。一緒に勉強してくれた友人に感謝しています。

⑤将来は、大学で学んだことを活かせる職業に就きたいと思っています。工学系分野の職業は女性が少なく活躍の場も少ないと思うので、女性が働きやすく活躍しやすい業界になってほしいと思っています。



岡本 将司 (循環4年)

この度、「常盤賞」を受賞することができましたことを心から嬉しく感じております。

お世話になりました先生方への場をもって感謝の意を申し上げます。

①「時間は有限である。」私が常に心がけていることです。工業の発展は現在まで人々の時間を作ってきました。洗濯機や自動車の開発はそれらにあたります。このような何かを与えることができるものを開発したいと考えたことがきっかけです。

③大学のように各専門に特化された先生方や講習会等で多彩な話を聞くことができる環境は非常に稀です。時間がある限りこのような機会を利用していくよう心がけて学生生活を過ごしました。

⑤私は時間を大切にし、人々の時間を作ることができる工学を求めました。近年、AIが急速な発展を続けています。AIの発展は人々に自由な時間を与えることができます。よって、私はAIを用いた自動化等の事業に関わることを目標としています。



舩田 栄次 (電電4年)

(学業優秀・数学統一試験)

①高校が宇部で山大工学部にたまに足を運んでいたこともあり、工学系に興味を持ち始めたことがきっかけです。

④数学統一試験としては、過去問を解いたり、出題範囲から傾向を分析したりすれば、ある程度は得点を伸ばすことができると思います。

⑤漠然としていますが、社会に貢献できる技術者になりたいと考えています。



大野 健人 (循環3年)

(常盤祭実行委員長)

②常盤祭実行委員長を経験したことです。授業との兼ね合いも大変でしたが、自分で一

から計画を立てて何かを達成するというのをやり遂げたのは初めてのことであったので楽しくもあり、達成感も得られとても充実していました。

④活動の中で計画通りにいったことはなかったので、その場で正しい判断ができるかどうか悩まされました。一人で考えこまず委員会のメンバーや時には地域の方とも協力し、集団としての自分の立場や動き方について多く考えさせられました。

⑤今はひたすら勉強をしています。この活動を通して地域の方と協力し何かをやり遂げることにとても魅力を感じました。地域の方に寄り添える仕事に就き、得られたことを活かしたいと考えております。



金子 拓嗣

(院機械工学系専攻2年)

⑥大学入学時から、大学院まで進学するつもりで勉強をしてきました。幼い頃から自動車に興味があり、将来は自動車の研究開発に関わる仕事に就くことを希望していたため、専門性を更に深め、自らの可能性を広げるためにも大学院に進学しました。

⑦エンジンの燃焼・振動・騒音に関する研究を行っている研究室に所属していました。ガソリンエンジンの燃焼効率改善を目的とした、高圧条件における液体燃料／空気予混合気の層流燃焼速度計測に関する研究を行いました。

⑧自動車会社への就職が決まっており、エンジンの研究開発から自動車の研究開発に携わ

りたいと考えています。自ら手がけた自動車
で、世界の人々に喜んでもらうこと・人々の
生活の役に立つことが目標です。また技術者
人生のどこかで幼い頃からの夢でもあるF1
に携われたらと願っています。



藤田 一輝
(院建設環境系専攻2年)

⑥就職説明会、インターン、
大学院の先輩から話を聞くな
ど自分の中で精一杯情報を集
めました。進路を決めることはできません
でした。そんな時に話を聞いてくださった先
生のおかげで自分の気持ちを再確認するこ
とができ、大学院進学を決めることができ
ました。

⑦エネルギー資源として注目を集めているメ
タンハイドレートを生産する手法の1つであ
る加熱法を用いた実験を行い、砂質堆積物中
に生成させたメタンハイドレート分解中の温
度挙動や圧力挙動の調査、一次元熱伝導解析
を用いて試料の熱物性を取得することに關
する研究を行っています。

⑧建設コンサルタントに就職が決まったので、
これまで学んできた知識を活かして土木構造
物の仕事に携わり、その土木構造物ができあ
がった姿を眺めるのが夢です。



川田 侑子
(院建設環境系専攻2年)

⑥学部よりもより専門的な勉
強をすると同時に学内外での
イベント(学会・発表会など)
に参加することで、自分がどのような仕事に
向いているのか知りたいと思ったためです。

⑦建築の構造分野を専攻しており、壁とスラ
ブだけで躯体を支える「壁式構造」の研究を
行っています。また、壁や床を厚くすること

で構面数の少ない壁式構造建物を実現させる
構造形式として「壁式鉄筋コンクリート厚肉
床壁構造」が提案されており、この構造の設
計指針の作成のための実験を行っています。

⑧まずは一級建築士の資格を取ることが最初
の目標にはなりますが、資格を取った後も、
優秀な建築士として社会に貢献していくこと
が私の目標です。建築士といってもピンから
キリまでいると思うのですが、建築主や一般
市民の方々に満足してもらえるような施設を
建てていける建築士になりたいと思います。



検見崎裕太
(院化学系専攻2年)

⑥研究室配属から継続してき
たテーマに興味を持ち、さら
に掘り下げたいと思ったから
です。また、論理的な思考、学会発表でのプ
レゼン技術、論文作成を通したライティング
スキルなど、大学院は社会人として必要な
スキルを身につけることができる最適な場所
であると思い、大学院への進学を決意しまし
た。

⑦「イオン液体」という低融点の塩をリチウ
ム二次電池の電解質に応用した、安全で高エ
ネルギー密度を有する電池に関する研究を
行っていました。イオン液体は難燃性や難揮
発性などの特徴を有することから、安全性に
優れた物質として注目されています。特に私
は、活性種の錯アニオンに酸化還元特性を付
与した新規イオン液体を調製し、その物性及
び電気化学特性の評価を行っていました。

⑧広い視野を持ち、グローバルに活躍でき
る人材になりたいです。また企業で研究員と
して実績を積んだ後は、様々な職種にチャレ
ンジしていけたらと思っています。



宮正 真心
(院化学系専攻2年)

⑥専門性の高い仕事に就きたいと考え大学院へ進学しました。じっくり物事に取り組むことが好きなので、研究に励む日々は非常に有意義な時間でした。

⑦「飲むワクチン」の開発に取り組みました。現在ワクチンは注射によって投与されています。注射は痛みを伴うため、患者さんへの負担が大きい投与方法です。そこで私は、ワクチンを飲み薬にするべく研究を行いました。予想外な結果が続き、くじけそうな時期もありましたが、先生方からご指導をいただき、実験に取り組むことができました。先生方には本当に感謝しています。

⑧大学入学時の私は、人と関わるのが苦手でした。大学でできた友人、先輩や後輩、そしてご指導いただいた先生方から、人と関わることの大切さやその方法を学びました。今の夢は山口大学で学んだことを活かして、人と連携し「宮正がいてよかった」といわれるような仕事をする事です。6年間ありがとうございました。



中村 宏貴
(院電気電子情報系専攻2年)

⑥研究をより深く追求したいと思ったからです。学部では、研究室で研究できる期間は4年次の1年間であり、研究を行うにはとても短い期間でした。そこで、私は大学院に進学することを決意しました。

⑦研究内容は、ブレインコンピュータインタフェース (BCI) についてです。BCIは、脳波を用いて、頭で考えるだけで、車やゲームのコントローラなどの操作やコミュニケーションが行えるインターフェースシステムです。重

篤な筋委縮性側索硬化症患者のような、視覚障害を持ち、言葉が不自由であったり、手を動かさない重篤な障害者でも使用できるBCIの研究を行いました。

⑧エンジニアとして障害者が健常者と同じように暮らせる社会を作ることです。私の就職先は自動運転に力を入れている会社です。そこで、自動運転システムの研究・開発を行い、身体障害者であっても、気軽にどこにでも出かけられるようにしたいと思っています。



植田 大介
(院電気電子情報系専攻2年)

⑥人工知能の研究を追求したかったためです。学部では1年間しか研究ができません。

そのため大学院に進学することを決めました。結果として、1年間では学ぶことができなかったであろう、進歩の著しい人工知能の最先端技術を学ぶことができました。

⑦豪雨時に土砂災害発生地域を高速に検出し、救助活動などに役立つシステムの研究を行っています。具体的には、災害時に取得される衛星画像を深層学習によって解析して自動的に災害領域検出を行うことを研究の目的としています。

③人工知能で便利で豊かな社会を築くことです。この会誌が発行されている頃には私はSEとして働いています。人工知能を用いたシステムをお客様の会社へ導入する業務を希望していますが、どうなるかはわかりません。まずは周りから評価されるような人間になって、希望する仕事をやらせてもらえるように努力していきたいです。